

## 30年以降の新潟米生産の方向性(新潟米基本戦略)について

### 〔基本的な考え方〕

需要に応じた米生産を基本としつつ、主食用米・非主食用米を合わせた米全体での需要拡大と、生産者所得の最大化のための多様な米づくりを推進



### 〔取組方向〕

銘柄間で需給に差があるため、用途ごとに需要に応じた生産を推進するものとする。

- コシヒカリは家庭内消費が中心であり、その需要の減少に見合った生産を行う一方で、良食味・高品質米を確保するため、食味を重視した米づくりを徹底する。  
なお、中山間地域等においては立地条件を活かし、付加価値の高い米づくりを進める。
- 業務用米や加工用米・輸出用米・米粉用米は、県内をはじめ国内外の外食・食品産業等との関係を構築し需要の拡大を図るとともに、生産者の所得確保に向け多収穫生産やコスト低減を推進する。
- 米価変動の影響を受けない飼料用米は、国の支援制度を踏まえ、水田フル活用や経営の安定化の観点から活用を図る。

# 県全体の生産目標に係る目標設定の考え方

## 【主食用米】

用途	品種	中長期目標(平成32年)の考え方	翌年産目標の考え方
家庭消費用	コシヒカリ	家庭内消費が主体であり、一定の価格維持の観点から、家庭内消費需要トレンド(出荷量を年2.0%縮小)に応じて目標設定	中長期目標を基に、適正在庫量の超過分(少ない場合はマイナス)を差し引いて、銘柄区分毎に設定
	こしいぶき	県内需要が中心であり、安定供給の観点から、近年の需要実績や実需の意向等を踏まえて設定	中長期目標を基に、近年の需要動向を踏まえつつ、集荷業者等の販売見込量を勘案して設定
業務用	その他うるち	業務用需要が主体であり、中食・外食用需要トレンドを踏まえ、県の施策方向を考慮して設定	中長期目標を基に、施策誘導効果や集荷業者等の販売見込量を勘案して設定
もち米・酒米		県内需要が中心であり、安定供給の観点から、県内実需者の中長期目標等から設定	中長期目標を基に、集荷業者等の販売見込量を勘案して設定

# 県全体の生産目標に係る目標設定の考え方

## 【非主食用米】

品 種	中長期目標(平成32年)の考え方	翌年産目標の考え方
加工用米	県外需要の拡大の観点を含め、県内実需者の意向を踏まえ設定	中長期目標を基に、施策誘導効果や集荷業者等の販売見込量を勘案して設定
米粉用米	県の施策方向性を踏まえ、実需の意向等も考慮して設定	中長期目標を基に、施策誘導効果や集荷業者等の販売見込量を勘案して設定
輸出用米	県の施策方向性を踏まえ、取組者の意向等も考慮して設定	中長期目標を基に、施策誘導効果や取組者等の販売見込量を勘案して設定
飼料用米	水田フル活用の観点から、国の支援内容を踏まえて目標設定	中長期目標をベースに、国の支援内容を踏まえ設定
備蓄用米	近年の国の買入数量を踏まえて設定	国の提示数量見合いとする

# 新潟米の県全体の生産目標(暫定)

## <県目標(暫定)>

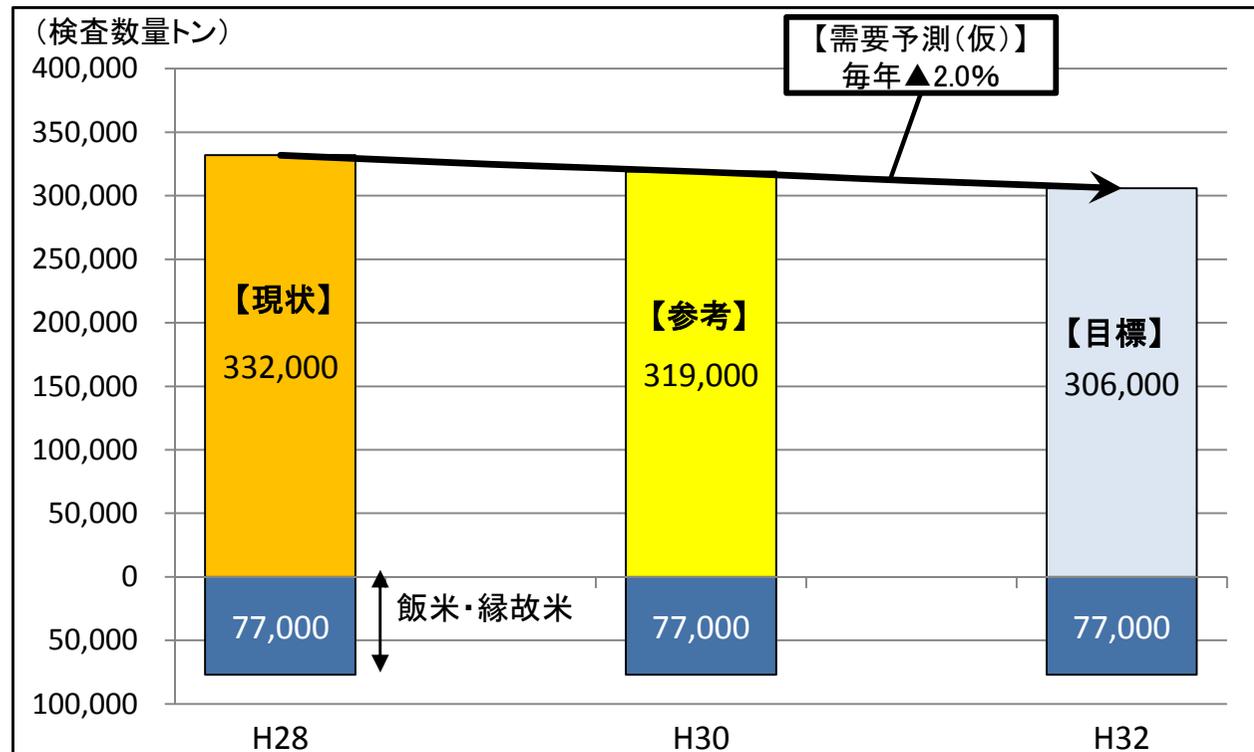
(トン)

作物	現状 (H28)推計	参考 (H30)	目標 (H32)
主食用米	448,100	450,000	440,500
家庭用	368,700	364,000	351,000
コシヒカリ	332,000	319,000	306,000
業務用	39,900	48,000	53,000
酒米・もち米	39,500	38,000	36,500
非主食用米	109,000	129,000	144,000
加工用米	37,000	39,000	40,000
米粉用米	8,500	12,000	13,000
輸出用米	3,500	7,000	10,000
飼料用米	25,000	37,000	47,000
備蓄米	35,000	34,000	34,000
合計	557,100	579,000	584,500

## 【前提】

- 現状(H28)
  - ・ 主食用米は、国資料や検査数量等を基に推計
  - ・ 非主食用米は、計画認定数量(飼料用米は多収を考慮)
- 目標(H32)
  - ・ 水田フル活用の観点から、水稻作付面積を維持する
  - ・ 業務用米等の所得確保の観点から、多収穫栽培による単収の増加を加味
- 今後、用途・品種別検査数量の調査結果や実需の意向調査等により目標数量を修正
- 翌年産の目標数量については、6月末在庫の状況により目標数量を修正(コシヒカリの適正在庫の超過分を差し引く)
- 飯米・縁故米は、目標数値から除く

## <コシヒカリのイメージ>



## <コシヒカリ銘柄区分別内訳>

(トン)

	現状 (H28)推計	参考 (H30)	目標 (H32)
コシヒカリ	332,000	319,000	306,000
一般	239,500	230,100	220,700
魚沼	56,500	54,300	52,100
岩船	17,800	17,100	16,400
佐渡	18,200	17,500	16,800

※ 翌年産の目標数量については、適正在庫量の超過分を差し引いて、銘柄区分毎に設定

H30新潟米の県全体の生産目標(暫定)の市町村別内訳

(トン)

	作況 指数	主食用 (新之助除く)	コシヒカリ		こしいぶき		その他うるち		酒米		もち米		非主食用			
			銘柄別		市町村別											
			主食用	シェア	主食用	シェア	主食用	シェア	主食用	シェア	主食用	シェア	主食用	シェア	認定ベース	シェア
全県	108	440,000	319,000	100.0%	319,000	—	59,000	100.0%	24,000	100.0%	18,000	100.0%	20,000	100.0%	129,000	100.0%
新潟市	109	96,620	230,109	72.1%	70,500	30.6%	12,880	21.8%	6,041	25.2%	1,047	5.8%	6,151	30.8%	34,752	26.9%
長岡市	108	44,587			27,206	11.8%	7,577	12.8%	2,051	8.5%	5,097	28.3%	2,656	13.3%	11,156	8.6%
三条市	108	17,406			10,712	4.7%	5,475	9.3%	380	1.6%	559	3.1%	280	1.4%	5,867	4.5%
柏崎市	108	9,422			5,439	2.4%	2,446	4.1%	649	2.7%	163	0.9%	725	3.6%	2,538	2.0%
新発田市	108	31,800			22,558	9.8%	3,082	5.2%	3,304	13.8%	1,234	6.9%	1,623	8.1%	14,591	11.3%
加茂市	108	5,104			4,032	1.8%	895	1.5%	86	0.4%	40	0.2%	50	0.3%	976	0.8%
見附市	108	7,225			4,362	1.9%	2,062	3.5%	124	0.5%	398	2.2%	279	1.4%	2,902	2.2%
燕市	109	19,271			10,891	4.7%	4,916	8.3%	2,669	11.1%	12	0.1%	783	3.9%	7,441	5.8%
糸魚川市	106	3,585			3,184	1.4%	182	0.3%	39	0.2%	72	0.4%	108	0.5%	428	0.3%
妙高市	106	3,753			3,092	1.3%	217	0.4%	277	1.2%	93	0.5%	74	0.4%	1,431	1.1%
五泉市	109	13,021			10,760	4.7%	968	1.6%	237	1.0%	112	0.6%	944	4.7%	5,262	4.1%
上越市	106	41,568			22,847	9.9%	6,298	10.7%	5,786	24.1%	4,146	23.0%	2,491	12.5%	11,632	9.0%
阿賀野市	108	23,432			18,392	8.0%	2,550	4.3%	380	1.6%	668	3.7%	1,442	7.2%	5,455	4.2%
胎内市	108	9,482			7,633	3.3%	1,486	2.5%	61	0.3%	90	0.5%	212	1.1%	3,606	2.8%
聖籠町	108	3,450			2,676	1.2%	380	0.6%	234	1.0%	0	0.0%	160	0.8%	1,413	1.1%
弥彦村	109	2,683			1,706	0.7%	484	0.8%	309	1.3%	100	0.6%	83	0.4%	858	0.7%
田上町	108	2,956			2,007	0.9%	853	1.4%	34	0.1%	0	0.0%	61	0.3%	823	0.6%
阿賀町	109	1,250			805	0.3%	7	0.0%	10	0.0%	428	2.4%	0	0.0%	376	0.3%
出雲崎町	108	1,630			754	0.3%	43	0.1%	194	0.8%	611	3.4%	28	0.1%	76	0.1%
刈羽村	108	972			552	0.2%	370	0.6%	40	0.2%	0	0.0%	9	0.0%	342	0.3%
長岡市	108	1,424	54,283	17.0%	1,424	2.6%										
小千谷市	109	7,992			7,487	13.8%	86	0.1%	42	0.2%	243	1.4%	135	0.7%	1,651	1.3%
十日町市	109	14,733			13,522	24.9%	271	0.5%	324	1.4%	60	0.3%	556	2.8%	1,019	0.8%
魚沼市	109	9,178			8,632	15.9%	262	0.4%	55	0.2%	177	1.0%	53	0.3%	819	0.6%
南魚沼市	109	16,613			15,919	29.3%	20	0.0%	87	0.4%	373	2.1%	213	1.1%	856	0.7%
湯沢町	109	456			455	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	3	0.0%
津南町	109	7,051			6,844	12.6%	0	0.0%	48	0.2%	85	0.5%	74	0.4%	111	0.1%
村上市	106	18,990	17,082	5.4%	14,853	87.0%	2,442	4.1%	361	1.5%	815	4.5%	520	2.6%	5,639	4.4%
関川村	106	3,224			2,229	13.0%	228	0.4%	7	0.0%	662	3.7%	98	0.5%	970	0.8%
佐渡市	104	21,123	17,526	5.5%	17,526	100.0%	2,522	4.3%	170	0.7%	714	4.0%	190	1.0%	6,007	4.7%

※作況指数:国が示す区別の作況指数(12月2日発表)

※主食用の内訳:作況補正後の検査数量(H28)によるシェア、非主食用の内訳:計画認定数量(H28)によるシェア

※目標は、飯米・縁故米を除いた数量

新之助	10,000
-----	--------

## 生産目標の設定に係る情報の提示について

### 1 県から地域段階への情報提示

- 市町村が主体となって目標設定を試行する際の、参考になるものとして「市町村別内訳」を提示（市町村別内訳は、強制力あるものではない）
- 31年産以降の対応については、30年産の取組状況を検証のうえ検討

### 2 地域協議会の対応について

農業者への目安等の提示については、地域ごとに方向性が異なることから、地域協議会の判断とする。

### 3 農業者等に対する情報提供

県は県産米の需給情報、作付動向等を情報提供

## コシヒカリ・市町村別内訳算定手順

### ① 銘柄区分別数量の算定

(コシヒカリの県全体生産目標) × (銘柄区分別シェア率) - (6月末在庫 - 適正在庫量※)

※ 適正在庫量: 6月末民間在庫量が安定供給を確保できる水準(180万トン)を基に算定する予定



### ② 市町村別シェア率の算定

(市町村別コシヒカリ検査数量)

(コシヒカリ銘柄区分別検査数量)



### ③ コシヒカリの市町村別内訳

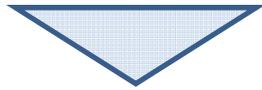
① 銘柄区分別数量 × ② 市町村別シェア率

※ 算定に用いる検査数量は全て作況補正したものを使用

# コシヒカリ以外・市町村別内訳算定手順

## 【コシヒカリ以外主食用米】

① 県全体の生産目標



② 市町村別シェア率の算定

$$\frac{\text{(市町村別コシヒカリ以外検査数量)}}{\text{(県全体コシヒカリ以外検査数量)}}$$

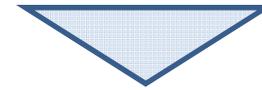


③ 市町村別内訳

① 県全体の生産目標 × ② 市町村別シェア率

## 【非主食用米】

① 県全体の生産目標



② 市町村別シェア率の算定

$$\frac{\text{(市町村別計画認定数量)}}{\text{(県全体計画認定数量)}}$$



③ 市町村別内訳

① 県全体の生産目標 × ② 市町村別シェア率

※ 算定に用いる検査数量は全て作況補正したものを使用

# 農業者等に対する情報提供

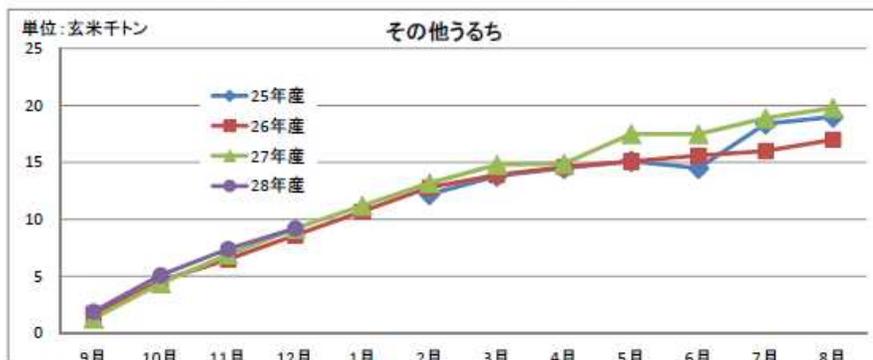
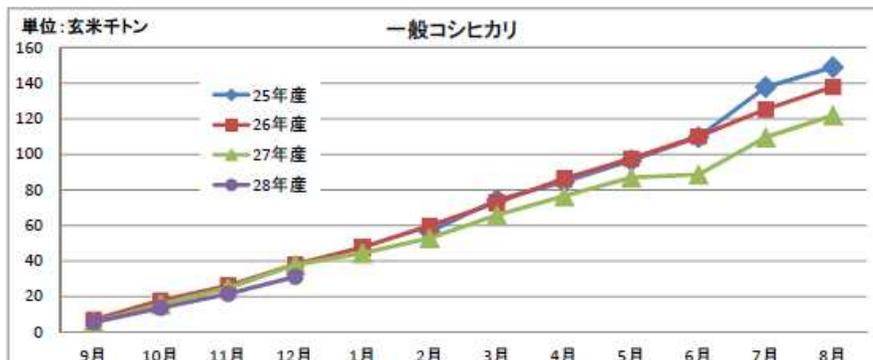
## ＜発信スケジュール(案)＞

- 県産米の需給情報 … 毎月
- 作付見込動向 … 10月、12月、3月、5月

## 県産米の需給情報<新潟版マンスリー(仮称)>イメージ

### 新潟米・販売数量の推移(累計)

【一般コシヒカリ】28年産米は、26、27年産米に比べ少なく推移している。  
 【その他うるち】28年産米は、26、27年産米に比べ常に同等か多く推移している



## 作付見込動向<DI>イメージ

### 集荷業者等の29年産作付動向に関する調査結果(H29.2月調査)

#### ＜調査結果概要＞

	DI <sup>※</sup>	(前回 月調査からの増減)
コシヒカリ (主食用米)	47.2	-
・ DIが判断基準となる50を下回っており「28年産に比べ減らす」との見方となっている。		
こしいぶき (主食用米)	51.6	-
・ DIが判断基準となる50を超えており「28年産に比べ増やす」との見方となっている。		
その他うるち (主食用米)	58.7	-
・ DIが判断基準となる50を超えており「28年産に比べ増やす」との見方が強くなっている。		

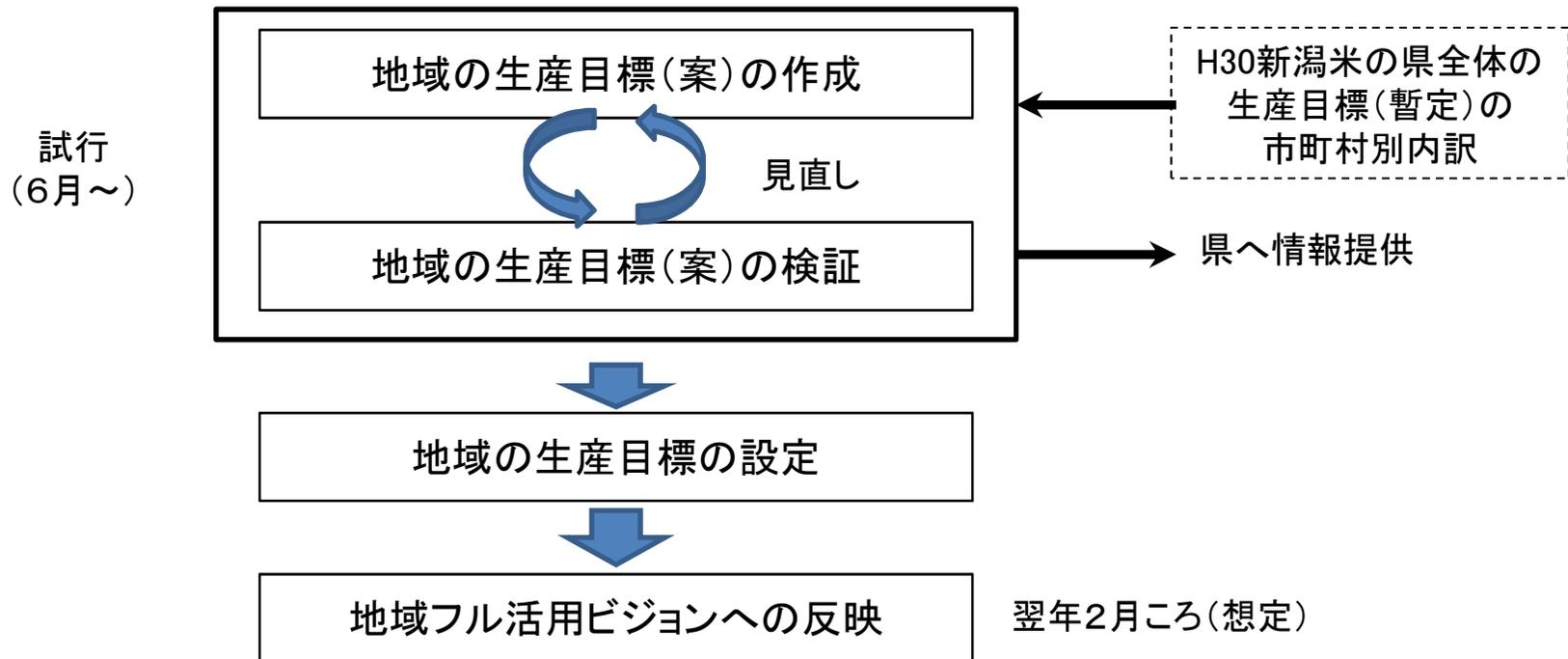
#### ※(解説)DI(Diffusin Index)の見方について

- アンケート回答者の判断や方向性を指数化したもので、仮に全員が「維持」を選択した場合DIは「50」、「大きく増やす」を選択した場合は「100」、「大きく減らす」を選択した場合は「0」となる。
- よって、DIが「100」に近づくほど「調査対象品種の作付面積を増やす(=調査対象品種の生産量を増やす)」という見込が強くなり、反対に「0」に近づけば「調査対象品種の作付面積を減らす(=調査対象品種の生産量を減らす)」という見込が強くなるという傾向を示す。

## 地域の生産目標設定のための試行

- 30年産の作付に間に合うよう、国が示す需給情報や方針作成者の集荷情報等を参考に、地域段階の施策方向を踏まえて生産目標(案)を作成
- 地域の生産目標(案)を作成する過程で課題等を検証

### <スケジュール(イメージ)>



※ 飯米・縁故米は、地域で適宜反映

## 目標設定の試行に対する取組検証

### < 地域 >

#### ○ 短期的な取組検証(8月)

(例) 地域目標設定のための課題の洗い出し

- ・ 地域目標設定のために必要な情報(内容、時期等)
- ・ 地域目標の設定方法(統計データを用いた算定、実需からの需要情報の積上げ等)
- ・ 用途・銘柄別の目標設定が可能か 等

#### ○ 長期的な取組検証(翌年4月以降)

### < 県 >

#### ○ 短期的な取組検証(8月)

地域での主体的な取組への支援

#### ○ 長期的な取組検証(翌年4月以降)

## 30年以降の米政策検討会議資料に対する質問事項及び回答

(平成29年6月9日現在)

質問事項	回 答
<p>今回県が示す県全体の生産目標(暫定)の市町村別内訳は、現行の生産数量目標の配分と何が違うのか。</p>	<p>今般の国の米政策の見直しにより、平成30年から行政による生産数量目標の配分はなくなります。                      今回提示する県全体の生産目標(暫定)の市町村別内訳は、あくまで市町村が主体となって地域の目標設定を試行する際の参考としていただきたいと思います。</p>
<p>県全体の生産目標(暫定)について、検査数量を用いて算出した理由は何か。</p>	<p>平成30年以降の新潟米生産の方向性(新潟米基本戦略)においては、需要に応じた米生産を基本に、用途ごとに需要に応じた生産を推進することとしております。                      このことから、用途・品種別の数量が把握できる検査数量を用いて、需要に影響が少ない飯米・縁故米を除く流通量ベースで、生産目標を設定したものです。</p>
<p>県全体の生産目標(暫定)の市町村別内訳は、現行の生産数量目標の配分のように、様々な要素を加味しないのか。</p>	<p>今回提示する県全体の生産目標(暫定)の市町村別内訳は、市町村が主体となってそれぞれの地域の生産目標の設定を試行する際の参考となるものであり、実需者との結びつきや品種構成などのこれまでの要素については、国が示す需給情報や方針作成者の集荷情報等も参考にしながら、各地域段階でその取扱いを検討していただきたいと思います。</p>
<p>今回示された県全体の生産目標は「暫定」となっているが、今後、修正されるのか。</p>	<p>「県全体の生産目標に係る目標設定の考え方」にあるとおり、コシヒカリの県全体の生産目標は適正在庫量の超過分を差し引くこととなっており、平成29年6月末の民間在庫量の数値が出された後に、必要に応じて修正する予定です。                      また、コシヒカリ以外の生産目標についても、施策誘導効果や販売見込量等を勘案して設定することとしており、必要に応じて目標に反映させる予定です。</p>

## 需要に応える業務用米等の生産拡大に向けた今年度の取組について

### 1 多収性品種極多肥現地試験ほの設置

多収性品種の現地適応性の確認試験（収量・品質・食味等）を実施して、所得確保を実証

品種		設置カ所（地域振興局）
早生	ちほみのり	村上、柏崎
	つきあかり	新潟、長岡、魚沼、糸魚川
晩生	北陸251号	新発田、巻、三条、上越

※有望品種については、当試験ほを活用しH30播種用種子の確保を予定

### 2 業務用米の生産拡大に向けた取組推進

多様な米づくり推進総合支援事業（業務用米等生産拡大支援）等の活用により、多収穫・低コスト栽培に取り組むことで、業務用米でも一定の所得確保が図られるよう推進（事業未実施地区では、多収性品種極多肥現地試験ほ等を活用）

## 業務用向け多収性品種の特性等について

(※H28 単年度調査、県作物研究センター調査)

### 1 品種特性 (※単年度、多肥・極多肥条件での評価)

熟期	品種名 (育成地)	草型等	主な特徴
早生	ゆきん子舞 (新潟県)	草型：中間型 稈長：中 耐倒伏性：強	長所： <u>収量多</u> 、 <u>品質良</u> 短所：食味やや不良、穂発芽性易、割れ糲多
早生	つきあかり (農研機構・北陸)	草型：偏穂重型 稈長：短 耐倒伏性：強	長所：大粒、 <u>食味良</u> 、葉いもち強、割れ糲少 短所：穂いもちやや弱、腹白粒懸念
早生	ちほみのり (農研機構・東北)	草型：偏穂数型 稈長：短 耐倒伏性：強	長所：収量やや多、品質やや良、葉いもち強、 <u>穂いもちやや強</u> 短所：食味やや不良、割れ糲多
晩生	北陸 251 号 (農研機構・北陸)	草型：(中間型) 稈長：中 耐倒伏性：やや強	長所： <u>収量多</u> 、 <u>食味良</u> 、 <u>穂いもちやや強</u> 短所：品質やや不良
晩生	あきだわら (農研機構・作物研)	草型：偏穂重型 稈長：短 耐倒伏性：やや強	長所： <u>収量多</u> 短所：葉いもち弱、穂いもちやや弱、小粒、品質やや不良

### 2 調査データ

< 試験設計の概要 >

試験場所：作物研究センター内ほ場

試験構成：多肥区、極多肥区

耕種概要：

試験区	育苗	播種期	移植期	栽植密度	基肥 (kg/10a)			穂肥 (kg/10a)
					N	P	K	N
多肥区	中苗	4/20	5/18 手植え	65 株/坪 4 本/株	5	5	5	2 (2回分施)
極多肥区					8	8	8	6 (2回分施)

#### (1) 生育及び収量

熟期	品種名 (系統名)	6月30日 (最高分けつ期頃) の生育					
		草丈 (cm)		茎数 (本/m <sup>2</sup> )		SPAD	
		多肥	極多肥	多肥	極多肥	多肥	極多肥
早生	ゆきん子舞	53	56	503	573	35.7	37.1
	つきあかり	59	67	335	355	39.9	41.3
	ちほみのり	52	56	597	666	37.2	39.5
晩生	北陸251号	48	51	522	574	33.8	35.5
	あきだわら	48	52	455	489	39.5	41.7

熟期	品種名 (系統名)	出穂期(月/日)		成熟期(月/日)		稈長 (cm)		穂数 (本/m <sup>2</sup> )		穂長 (cm)	
		多肥	極多肥	多肥	極多肥	多肥	極多肥	多肥	極多肥	多肥	極多肥
早生	ゆきん子舞	7/25	7/25	8/31	8/31	87	91	450	466	18.4	20.1
	つきあかり	7/23	7/24	8/29	8/30	71	78	287	379	19.6	19.6
	ちほみのり	7/20	7/20	8/26	8/26	71	74	507	553	18.2	18.6
晩生	北陸251号	8/9	8/8	9/25	9/24	80	86	400	489	19.6	20.2
	あきだわら	8/10	8/9	9/25	9/25	76	84	353	461	21.0	21.3

熟期	品種名 (系統名)	収量 (kg/10a、1.85mm篩)		千粒重(g)	
		多肥	極多肥	多肥	極多肥
早生	ゆきん子舞	781	841	22.9	22.5
	つきあかり	629	809	25.0	24.6
	ちほみのり	710	845	22.7	23.0
晩生	北陸251号	763	864	23.7	24.0
	あきだわら	734	878	22.0	22.1

## (2) 特性、品質及び食味

熟期	品種名 (系統名)	いもち病抵抗性 遺伝子型	葉いもち	穂いもち	耐倒伏性	穂発芽性	外観品質	
							多肥	極多肥
早生	ゆきん子舞	<i>Pia, Pii</i>	中	中	強	易	3.3	4.2
	つきあかり	<i>Pii, Pik</i>	強	やや弱	強	やや難	4.7	4.5
	ちほみのり	<i>Pia, Pii</i>	強	やや強	強	やや易	4.5	3.5
晩生	北陸251号	<i>Pii, Pik</i>	中	やや強	やや強	やや難	4.2	5.8
	あきだわら	<i>Pii</i>	弱	やや弱	やや強	やや難	4.0	6.8

注) いもち遺伝子型、葉いもち、穂いもち、耐倒伏性、穂発芽性は育成地における評価  
(平成27年度作物研究推進会議稲技術研究会資料より)

熟期	品種名 (系統名)	整粒歩合(%)		割 粳 率 (%)	玄米タンパク質含有率(%)		アミロース含有率(%)	
		多肥	極多肥		多肥	極多肥	多肥	極多肥
早生	ゆきん子舞	87.6	86.5	8.0	6.0	6.6	15.7	15.2
	つきあかり	78.9	81.9	2.3	6.1	6.9	14.4	13.9
	ちほみのり	73.7	76.0	7.8	6.3	6.9	15.1	14.7
晩生	北陸251号	76.9	62.7	0.6	5.3	6.2	15.0	14.9
	あきだわら	71.6	56.8	0.7	5.5	6.6	16.4	16.3

熟期	品種名 (系統名)	食味総合評価		味度値	
		多肥	極多肥	多肥	極多肥
早生	ゆきん子舞	-0.66	-0.90	69.4	65.3
	つきあかり	-0.35	-0.37	70.6	71.3
	ちほみのり	-0.54	-0.74	73.3	70.5
晩生	北陸251号	-0.01	-0.05	78.1	74.5
	あきだわら	-0.07	-0.40	76.3	72.4

# 多様な米づくり推進総合支援事業

## 業務用米等生産拡大支援（重点・県単・新規）

業務用米や加工用米などの多様な米づくりによる生産者所得の最大化を図るため、多収穫・低コスト生産に向けた体制づくりや需要拡大の取組を支援する。

### 1 事業内容

多収穫が期待できる品種を用いた多収穫・低コスト栽培の取組に対する支援

### 2 事業主体 認定方針作成者

### 3 平成29年度予算

35,000千円（事業実施期間：平成29年度～平成30年度）

### 4 事業イメージ

## 業務用米等生産拡大支援

### 【補助対象経費】

#### ○ 助成単価 定額

（対象品種※の拡大面積に応じて助成）

※下記の下線部品種

拡大面積	支援額
5ha以上	250千円
10ha以上	500千円
20ha以上	1,000千円

○ 業務用米等（加工、輸出、米粉用含む）の生産において、多収穫が期待できる品種（コシヒカリ・こしいぶき・新之助を除く水稲うるち品種）を用いた、多収穫・低コスト栽培に係る産地の主体的な取組に対する支援

### 【補助金の活用用途】

多収穫・コスト低減技術実証（路地プール育苗・密播育苗・流込施肥・粃殻散布等）、栽培技術検討会の開催、資材費補助、翌年産種子の増殖、種子代補助、業務用米等の需要拡大に向けた活動等

### 【要件】

- 業務用米等生産部会等の設置
- 業務用米等多収穫・コスト低減推進計画の策定
- 業務用米等の需要拡大が見込まれること

## 農林県単特認（多様な米づくり推進総合支援）をセットで活用

- 担い手が取り組む多収穫・コスト低減に必要な機械の整備を支援
- 担い手等が作業を引き受けるために必要な機械・施設整備を支援
- 多収穫が期待できる品種の種子確保に必要な機械・施設整備を支援

### 1 採択要件

多様な米づくり推進総合支援事業の「業務用米等多収穫・コスト低減推進計画」との整合、他

### 2 事業主体（借受者）

補助：農地所有適格法人、農業者等の組織する団体、農業協同組合・第3セクター  
リース：民間リース会社（借受者：認定農業者等）

### 3 事業費の範囲 補助：1,000～50,000千円、リース：1,000～30,000千円

### 4 補助率 5/10以内

### 5 事業実施期間 平成29年度～平成30年度